

いよいよ夏本番

越後 北ノ又川

栗原 他

【日時】 2007年8月3日～5日

【メンバー】栗原L 大田原 小川

8月3日 晴れ時々曇り (栗原 記)

台風の進路が微妙で、前の晩まで入渓を悩んでいた。が、当日朝、天気予報が好転、入渓を決めた。

朝一のバスは縦走風の学生たちと私たちのみ。石抱橋で降ろしてもらう。今のところ天気



崩れる気配はない。会山行の時同様、右岸の道をたどり、坪倉沢から入渓する。芝沢までは河原状で、沢の中を渡渉したりへつったりしながら進む。芝沢あたりからゴルジュ状になる。芝沢から板倉沢まで左岸に踏み跡があると聞いていたので左岸に上がるが、踏み跡を見つけられず藪こぎになってしまった。途中藪こぎに嫌気が差して沢に降りるが、ゴルジュですぐにまた追い上げられる。結局大ビラヤスまで藪をこいだ。大ビラヤスか

らは沢沿いに行くが、結構なゴルジュで流れも強く、ルート取りに時間がかかる。2時間近くかけてようやく板倉沢出合までたどり着いた。

予定より時間がかかってしまったが、シツカイ沢の手前に幕場があるとのことなので、今日はそこまでと決め、ゴルジュの中を進む。シツカイ沢手前のゴルジュは水勢が強そうなので右岸から巻いた。その巻き下ったところにいい天場があった。明日の天気と滝沢の雪渓の状態に多少の不安はあるものの、今ひと時、晴れた穏やかな夕暮れに焚き火を囲む。



8月4日 曇のち雨 (小川 記)

幕営地から間もなくシッカイ沢が出合う。沢床はますます側壁がたち、大きなゴルジュとなってくる。垂直に立ち上がる 8m 滝は高さでは表せない重量感があっていつまでも見ていたくなる。これは右を巻くように越し、節理の溝を流れる流水をしばらくたどると円形劇場と呼ばれるゴルジュが見える。ここは数mの高さごとに段々になっているので、一段あがって先の屈曲部を覗き込むと川面から 30m 以上の高さに巨大なスノーブリッジが架かっている。たまたま右岸の巻きに入り懸垂 15m で沢に戻る。



5m、10m 滝を越えると大ヒカバ沢に出合う。ここからは既に源頭の雰囲気が現れ、小滝たちが可愛らしく出迎えてくれる。が、それで終わるはずもなく、長さ 30m のスノーブリッジが現れ、これをくぐる。さらにシッカイ岨沢出合を過ぎると、突然上流から冷風の洗礼。

大田原さんと悲鳴をあげる「さ、さつむうっ！！」

果たして、大雪渓が現れる。雪渓の上に乗ってしまうと、長い歩きに入る。亀裂が一箇所あるだけ

けであつという間にアサズキ岨沢出合に到着。栗原さんは雪渓の状態を心配して稜線が一番近い支流へ行くことを提案するが、まずは沢の状態を偵察してからにしましょうとアサズキ岨沢へ入る。見てみれば雪渓が沢を埋めており、状態は決して悪くない。遡行の成功を確信して先に行く。

途中、20m 程の滝が顔を出しており、スパイクをつけて右岸から巻く。再び雪渓歩き。傾斜も出てきて辛い。奥の二俣を右に入れて間もなくスラブに降り立ち、水汲み休憩。ここからは急なゴーロ帯が続く。

標高 1880m 辺りで、スパイクをつけて右手の緩い草付きから尾根に入ると、あとは膝から腿のヤブ漕ぎ。折よくガスがかかり気温も低く、絶好のヤブ日和。うんしょ♪うんしょ♪とテンポのあるヤブ漕ぎをみんなで楽しんだ・・・と思っていたのだが、ヤブに快感を感じていたのは僕だけだった模様。

1 時間弱のヤブ漕ぎで登山道に出る。握手を交わしたら雨も降ってきたので、中ノ岳避難小屋へ。中にあった毛布を羽織り、担ぎ上げたビールで乾杯。

ささやかに宴会していると、栗原さんや僕の荷物からは来週に控えた胎内川の資料が現れ、もう次の沢、次の次の沢の話がのぼる。大田原さんからすれば、さぞかし節操のな





い人間として映っていたに違いない。

8月5日 曇のち快晴

5時過ぎに避難小屋を出発して十字峡、野中集落へと下山。ガスは次第に晴れて夏の陽気になった。

野中からバスで六日町駅に行き、温泉と食事、それにビール！車を使わずに山に来た甲斐があった。振り返ると、入山での天候判断からしてなかなか気の抜けない山だった。トマの人からは「〇んわん山行」とか呼ばれるだろなーと思いつつ、帰京したのであった。



【グレード】4級

【行程】8/3 石抱橋(8:05)～大ビラヤス沢出合(12:35)～板倉沢出合(14:20)～シツカイ沢出合手前BP(15:30)

8/4 c1(5:50)～大ヒカバ沢出合(8:05)～シツカイクラ沢出合(9:20)～アサズキクラ沢～中ノ岳(13:40)～避難小屋(13:55)

8/5 c2(6:40)～日向山(7:50)～十字峡～野中(11:15)

【地図】銀山湖・八海山・兎岳